

2019年明石市長選挙 公開討論会 質問項目一覧表

I. 冒頭の総括的な質問	
1	(立候補の動機) なぜ、今回の市長選挙に立候補されるのですか? 市長になってやりたいことを3つまで挙げてください。
2	あなたは、明石市の“憲法”と言われる「自治基本条例」を遵守することを、市民に誓うことができますか? (Yes または noでお答えください)
3	明石市政が直面する最重要課題は何ですか? 1つ挙げて、説明ください。
4	市民マニフェストを読まれた感想について、率直にお聞かせください。
II. 市長として基本的な姿勢に関する質問	
1	今回「市長の職員に対する暴言問題」が全国から注目されましたが、背景には、3代にわたる市長がいずれも市長と職員の信頼関係に関わる問題から「任期途中の辞職」または「再選断念」に追い込まれた異常な事態があります。明石市政における、このような構造的な問題を、どのように克服されますか?
2	明石市は今年、自治基本条例の施行から10年目に入りますが、「市民自治によるまちづくり」を推進するためには、「市民の市政への参画」「協働のまちづくり」、その前提としての「情報の共有」を定着させることが急務です。今回の暴言問題も含めて、市長が「説明責任」を果たす姿勢が希薄であると見られますが、トップが説明責任を果たすことについて、どう考えられていますか?
3	自治基本条例は3つの個別条例の制定を規定していますが、住民投票条例は条例検討委員会から答申されて以来4年半も経つのに、未だ制定されていません。市長は答申案に沿って、速やかに提案し成立を図るべきではないですか?
III. 個別政策に関わる質問	
1	「魅力あるまち明石」をめざした“明石らしいまちづくり”を進めるためには、 ①海と港、ため池などの豊かな水辺環境と自然を活かしたまちづくり ②お城や城下町の遺構、古代からの歴史や文化を活かしたまちづくり ③新鮮で質の高い魚や近郊野菜などの食文化を活かしたまちづくり ④人口縮小社会を視野に入れて、庁舎移転絡みの新たな駅前再開発などの過大な開発事業を抑制し、まちなみ景観の修復や“そぞろ歩き”を楽しめるまちづくり などが大切だと考えます。この考え方と具体的な施策について、意見を聞かせてください。
2	「支え合いの社会」を実現するためには、一昨年からはじめた「地域総合支援センター」の中学校区への拡大と、「地域支え合いの家」をすべての小学校区に広げることが必要です。そのためには地域住民の受け皿組織への手厚い支援を強化しなければ進みません。当事者と事業現場の意見を反映した福祉施策を進めるために、どのような手を打たれますか?
3	高齢者や障がい者の移動の権利を保障する、移送サービスの充実が求められています。買い物や通院、通学、通所等を容易にできるように、地域と現場の実態に応じた独自のサービスが求められています。どう対応しますか?
4	泉市政の下で強力に進められてきた「子育て支援」施策は、量的な拡大の面では大きく進みましたが、「保育の質」などの質的な面でさまざまな対応が求められています。待機児童のピークが学童期に移行しつつある中で、どのような施策を打ち出されますか?
5	人口減少、少子高齢社会の進行に対応し、拡大成長志向から持続可能な社会へ向けての政策転換を図る財政政策が求められています。市民の参画と協働が不可欠な公共施設の削減と再編に、どう取り組まれますか?
6	市役所庁舎の移転や建て替えは市民にとっても重要な課題です。検討段階から、市民に説明するとともに情報の共有が必要ですが、どう取り組まれますか?
7	生物多様性あかし戦略に基づき、自然と人が共生するまち明石の実現へ向けての具体的な施策の展開が求められています。「市街化調整区域を減らさない」「市街化区域内の農地を保全する」「ため池の多面的機能を活かしてこれ以上の埋め立てを禁止する」「貴重な里山区域である松陰新田を保全する」ことなどが重要かと思いますが、どう考えますか?
8	市制100周年、明石城築城400年事業について、一過性のイベントだけでなく、後世に残る事業を追加しませんか? 例えば、「城下町明石」の遺構を整備するなど、既存施設を活用した「歴史資料館」のようなものの事業化。「魚のまち明石」にふさわしい、明石の魚や明石の海の特徴などをひと目で学べる「魚のまち資料館」のようなものの事業化はいかがですか? また、懸案の新しい「明石市史」の刊行計画と事業計画を立案し、目標年次を定めることも100周年にふさわしい事業です。これらの提案について、どう思われますか?